

平成15年度学力向上フロンティア事業中間報告書

都道府県名	島根県
-------	-----

学校の概要（平成15年4月現在）

学校名	安来市立第一中学校					
学 年	1年	2年	3年	特殊学級	計	教員数
学級数	5	4	4	3	16	32
生徒数	168	158	148	8	477	

研究の概要

1. 研究主題

確かな学力の定着を目指して

2. 研究内容与方法

(1) 実施学年・教科

<ul style="list-style-type: none"> ・全学年 数学・英語 生徒の学力差が大きく、基礎・基本の定着を目指しての指導について、改めて見直す必要があるため

(2) 年次ごとの計画

平成14年度	<p>テーマ 学習意欲の高まりを目指して</p> <p>仮 説 教師が学習意欲を高めるよう授業を工夫すれば、確かな学力が定着するであろう。</p> <p>研究内容・方法 ・教育課程の編成の工夫により、効果的な指導場面を設定する。 ・校内研究会、指導講師の模範授業を通して、学習意欲を高める学習指導法について、今後の課題を模索する。</p>
--------	---

平成15年度	<p>テーマ 一人一人の実態に応じたきめ細かな指導</p> <p>仮 説 ・個々のつまづきを把握し、それに基づいてきめ細かな指導をすれば、確かな学力が定着するであろう。</p> <p>研究内容・方法 ・少人数指導、TT指導の効果的な進め方を模索する。 ・理解が遅い生徒が学習への意欲を失わない授業づくりを模索する。</p>
--------	---

平成16年度	<p>テーマ 学力の評価を生かした指導</p> <p>仮 説 ・生徒自らがここの進歩の状況を意識できる指導や、生徒の評価活動を指導の改善に生かすことができれば、確かな学力が定着するであろう。</p> <p>研究内容・方法 ・生徒が、自身の進歩の状況を意識でき、次の活動への意欲につなげることができる評価活動を取り入れた学習のあり方や、生徒の評価を指導の改善に生かす方法について研究を進め、1・2年次の研究成果や課題をふまえた実践の修正を行い、3年間のまとめを行う。</p>
--------	--

(3) 研究推進体制

フロンティアスクール実践研究委員会 校長、教頭、研究主任、学年主任、教務主任

平成15年度の研究成果及び今後の課題

1. 研究の成果

今年度は、2学年・英語、3学年・数学で少人数指導、全学年・数学で週一回TT指導をおこなってきた。また昨年度から継続して選択教科の学力補充学習(数学・英語)で各学
--

年で指導形態を工夫して行っている。(1学年・T T指導、2・3学年・少人数指導)
 少人数・T T指導とも、教師がきめ細かく生徒を指導することができるため、学力やつまずきを把握しやすい。
 少人数指導の学級で行った意識調査によると、ほとんどの生徒が「少人数指導で行う学習の方が一斉指導に比べて取り組みやすい」と答えている。小集団になる安心感からか、特に理解が遅い生徒のグループで自分を表現しやすくなり、教師への質問をすることに抵抗がなくなった、という生徒が多い。それによって、学習内容についても理解が進んだと感じているようである。
 また、昨年度からの本校の重点目標「授業づくり」と「集団づくり」についてさらに研修を進めることができた。特に「授業づくり」については、「絶対評価による評定『1』の生徒の学力をどう向上させていくか」という点にポイントを絞って教科部会で話し合い、実践への手がかりを探った。

2. 今後の課題

少数指導、T T指導について、さらに検討を重ね、個に応じた指導の充実を図っていく必要がある。
 また、生徒が学習に対してさらに向上心をもって取り組むために、個々が自分の学力や伸びを確かめ、課題を意識することが必要であると考え。そのような学習活動のあり方、また教師の指導の改善に生かす方法についても研究を進めていくべきだと考えている。
 また、各教科共通の授業づくりのテーマとして、以下の4項目をあげているが、今後も確認をしながら、授業研究を充実させ、追求していきたいと考えている。
 小集団活動を生かした授業
 構成を考え、メリハリのある授業
 発言のチャンスがある授業
 頑張りを見つけ、ほめる授業

学力把握のための学校としての取組

各教科で課題学習終了後、学力の定着を見るための評価を計画的に行う。

フロンティアスクールとしての研究成果の普及

保護者との連携の推進、情報発信について
 保護者参観日や行事等で、少人数・T T指導について保護者への啓発活動を行っている。学校だより、PTA広報、学級・学年だより等で、保護者への周知を図っている。
 他の学校との連携の推進、情報発信について
 ・市内の小中学校校長研修会において、研究内容や取り組みの状況、並びに問題点等について説明し、意見を求める場を設けた。
 ・校内で授業研究等を行う際、近隣の学校にも案内し少人数学習について提案し、協議した。

次の項目ごとに、該当する箇所をチェックすること。(複数チェック可)

【新規校・継続校】	15年度からの新規校	14年度からの継続校		
【学校規模】	3学級以下	4～6学級		
	7～9学級	10～12学級		
	13～15学級	16学級以上		
【指導体制】	少人数指導 その他	T Tによる指導		
【研究教科】	国語	社会	数学	理科
	外国語	音楽	美術	技術・家庭
	保健体育	その他		
【指導方法の工夫改善に関わる加配の有無】		有	無	

学力向上フロンティアスクールの取組

安来市立第一中学校

確かな学力の定着を目指して、個々のつまずきを把握し、それに基づいてきめ細かな指導をするために、数学科、外国語科で少人数指導、ＴＴ指導の効果的な進め方について研究を進めている。また、各教科で、「小集団活動を生かした授業」「構成を考え、メリハリのある授業」「発言のチャンスがある授業」「頑張りを見つけ、ほめる授業」を視点に、努力を要すると判断される生徒（評定「１」の生徒）が学習への意欲を失わず、学力を向上させる授業づくりを進めている。